

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称 施策Ⅱ-5-6 地域コミュニティの維持・再生

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 しまね暮らし推進課長 今岡 泰治 電話番号 0852-22-6179

事務事業の名称	ふるさと島根定住推進事業（田舎ツーリズム推進事業）	
目的	(1) 対象	県内の民間団体やグループ
	(2) 意図	都市等と農山漁村との体験交流や地域活性化に向けた活動が活発に行われる。
事業概要	しまね田舎ツーリズム推進協議会を中心として、農山漁村における体験交流実践者等の活動の充実や連携、発信を図り、地域全体での都市等と農山漁村との体験交流を推進する。	

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	田舎ツーリズム推進協議会宿泊調理部会加入施設数	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		235.00	245.00	255.00	265.00	
式・定義	加入した施設の数		実績値	224.00	236.00	265.00	281.00		
			達成率		100.40	108.20	110.20		%
指標名	田舎ツーリズム推進協議会加入施設数		年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		0.00	0.00			
式・定義			実績値	0.00	0.00	0.00			
			達成率		0.00	0.00			%

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	17,630	17,630
うち一般財源(千円)	15,130	15,130

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	③改善策を検討中
---------------------	----------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

・各種研修会の開催や情報発信（ポータルサイト、情報誌等）の強化により、加入施設施設数や体験者数は増加傾向。農山漁村の活性化や地域経済の活性化に成果をあげている。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

・田舎ツーリズムは、「地方への流れ」を生み出す有効な手法（例：平成17年以降、田舎ツーリズムをきっかけにした定住者120名以上）
 ・平成26年度には「しまね田舎ツーリズム10周年記念キャンペーン」を開催し、都市農村交流を促進。延べ2,000人の方に参加をいただき、都市から地方への人の流れに一定の成果をあげている。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

・受入先が減少している地域もあり、今後この流れは加速するものと予測（例：隠岐民泊施設：[H17]140軒 → [H27]76軒）

②困っている状況が発生している「原因」

・実践者の高齢化、若者の参加が少ない
 ・全国的に修学旅行や大学のゼミ合宿、企業の新入社員研修等にグリーンツーリズム、農山村体験を活用する動きが出てきているが、この流れを捉え切れておらず、個人の交流者対応が中心。「地域の稼ぐ力」や「地域価値の向上」に繋がっていない。

③原因を解消するための「課題」

・②の団体客層の誘致には、一定数以上の実践者による広域での受入体制が必要
 ・また、安心して体験（特に宿泊）できる施設・設備や実践者の危機管理能力も求められているが、必ずしも十分ではない
 ・加えて、これまで誘致できていない若年層等の団体に対して訴求するためのプログラム構築となっていないうえ、こうしたプログラム造成のためのノウハウも蓄積されていない

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

・団体客層の誘致のため、以下三つの取り組みを展開
 ①安心して体験（特に宿泊）できる施設・設備や実践者の危機管理能力を強化（リスクマネジメント研修、農家民宿開業研修の開催等）
 ②団体客向けのプログラムを開発し、県内実践者への波及を図る（プログラム開発、モニター団体の受入等）
 ③実践者の更なる掘り起こしやネットワーク化を図る（定住財団プロパー職員の配置）
 ・以上により、団体客層へのアプローチを強化し、更なる誘致を図ることで、一層の交流人口（定住人口）の拡大を目指す。
 ・これにより、「地域の稼ぐ力」や「地域価値の向上」を具現化し、既存の実践者の事業継続及び新たな実践者の掘り起こしに繋げる。

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）